

山の現場から

⑪ 東区・府中町

三宅 尚
営農指導員
指導員歴19年

J A広島市では、地域農業の振興と農業生産の拡大に向け、管内を17の地域に分け、それぞれの地域特性を活かした品目の選定や計画的な作付け、振興方策をまとめた「地域別農業プラン」を策定し、計画的な産地づくりと持続的農業の振興に取り組んでいるところです。

このページでは、17の地域の「地域別農業プラン」および営農・畜産指導員を紹介していきます。11回目となる今回は、東区・府中町です。

地域別農業プラン〜東区・府中町

◆現状と課題

東区・府中町で生産された農産物のほとんどは、各地区の朝市やとれたて元気市・スーパーのインショップへ出荷されています。そのため、品目ごとの栽培指導・振興ではなく、少量多品目栽培による産地育成が図られています。

また、最近では、地元農家が出荷グループを作り、JA直販を通じて、東区のスーパー（マックスバリュ・フォレオ広島東店、マックスバリュエクスプレス広島駅北口店）にインショップ展開し、販路拡大を目指しています。



た料理のレシピを作るなど、消費者に旬のおいしい野菜を提供するための研究も行っています。

三宅指導員は、生産者と地域の関係づくりのため、地域や小学校で開催する栽培教室の講師を務めています。また、月2〜4回、野菜の栽培に関心のある地域住民を対象に、地区内の支店会議室を使って土づくりや病害虫、栽培適期などを学ぶ園芸教室を開き、地域の野菜生産の振興も進めています。

「苗や種を求めて購買店舗に来店される方にもできるだけ声をかけ、園芸教室に参加してもらっている。参加者のなかには栽培技術を身につけ、朝市やスーパーのインショップに農産物を出荷されるまでになった方もいる」と、地域の生産体制を維持・拡大できた園芸教室の取組みにも営農指導員としてのやりがいを感じています。

◆出会いと交流の場「木曜であい市」

この地区では、生産者が週1回、東区民文化センターのオープンスペースで「木曜であい市」を開き、地元でとれた新鮮な野菜を販売しています。毎回、大勢の来店客で賑わい、アツという間に売り切れてしまいます。

「木曜であい市」を運営する東区ふれあいもてな

◆振興方策

スーパーのインショップは、大きな需要が見込まれるため、広く出荷農家を募ります。これまでほとんど出荷されなかった自家消費の農産物を販売することや、非効率な土地利用を改善することで、生産と出荷販売を強化して農家の所得向上を図ります。特に、馬木地区、福田地区を重点地域として新たな会員を増やしています。

朝市やとれたて元気市では、定期的な農談会を開き、各地区に点在する少量多品目生産の農産物を出



し市協議会の満田秀子会長は「出店し続けることで生産者の生産意欲が高まり、この地区にもおいしい野菜があることを消費者にPRできる」と、出店の意義を話します。三宅指導員に対しては、「イベント出店や栽培指導など、いろいろな面で協力してもらい頼りになる存在。農業とともに地域の活性化を担ってもらいたい」と期待を寄せています。



広島駅からJR芸備線までひと駅にある矢賀地区では、広島の伝統野菜「矢賀チシャ」や「矢賀ウリ」なども栽培されています。もともと農業の盛んな土地

荷誘導しています。

また、農事研究会や園芸組合を中心に、品質向上や農業の適正使用、栽培履歴の記帳を継続的に推進しています。地域の特産品である矢賀チシャは栽培ごよみに基づいた普及・指導を行い、グループ化を推進し、産地維持を図ります。

温品ホウレンソウは、採種技術の向上を図るとともに、病害虫の早期対処を実施し、品質の改善を行い単価の向上を図ります。

また、キノコ類は、品質表示・衛生・環境管理に関する法令を遵守します。

ミズナ・コマツナなどの葉物野菜は、食味を重視しつつ、栽培の容易な品種の選定を行い、圃場回転率を向上させて、生産量の拡大を図っています。



◆推進品目

コマツナ／ミズナ／ホウレンソウ／切花／キノコ など

営農指導にあたり

◆担当地区と主な取組み

東区・府中町では、現在38名の生産者が安芸町農事研究会に所属し、月1回の研究会で主に野菜や花などについて学び、栽培技術や品質の向上に励んでいます。研究熱心な生産者が多く、地元野菜を使っ

柄。三宅指導員は、地名のついた野菜にこの地域の未来を重ね、地域農業を活気づけたいと、日々担当エリアを駆け巡っています。

◆地域との絆をより確かなものに

この地区を担当して3年が過ぎた三宅指導員は、担当地区や生産者の印象を「地域や地域で作る野菜への想いが強く、JAと生産者との絆が強い」と話します。実はこの地区、JA広島市管内の各支店で広く行われている朝市を先駆けて行った地区でもあり、「生産者とJAの関係は昔からとても良好。生産者からの厚い信頼は今も続いている」と、諸先輩方の築いた「地域とJAとの絆」をうれしそうに話します。さらに、この絆をより広げるために「生産者の所得増大とともに、生産者になっていただける方を増やしたい」と、今後の抱負を話します。

